

令和2年度 札幌自由が丘学園三和高等学校 学校評価結果

和寒町教育特区学校審議会条例第2条第1項第4号により、三和高等学校の令和2年度の学校運営全般の状況について、同校から提出された資料や聞き取り調査等を通して、下記のとおり評価を行いましたので、結果を町長に報告します。

評価項目	評価の視点	評価	所見
1 各教科の状況	教育課程の適切な運用と状況 教科指導の状況 進路指導の状況	優れている	本年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、4月から5月の期間、臨時休校となった。そのため、和寒町で実施する計画となっていた「北海道科」及び「自然体験科」のスクーリングを行うことができなかった。代わって、オンライン授業やメディアを活用した学習に力を入れて取り組んでいた。義務教育段階の基礎的・基本的な学習内容の「学び直し」を行い、習熟度別のクラスを2クラスから3クラスに増やすなどの工夫をしながら指導・支援に努めたことで、生徒に継続して努力することの大切さを実感させることにつながっていた。次年度は、新型コロナウイルスの感染状況を見極めながら、今後広がるであろう遠隔教育を視野に、ICT技術を活用した授業を拡充について検討を進めるとともに、感染防止対策の徹底を図りつつスクーリングが実施できることを期待する。
2 生徒の状況	生徒指導等の状況 生徒の人格的発達の状況 安全管理の状況 要望等の状況	優れている	本校には、何かの理由により一度は高校へ通わないことを選択した生徒が多く入学してくる。そのような生徒の「小規模少人数の落ち着いた環境で学びたい」、「人間的な関係を持ちたい」という思いを大切にしながら、生徒一人一人の居場所づくりをすることを重視し、自立に向けた丁寧な生徒指導を進めていることは高く評価できる。特に、本年度はコロナウイルス感染症による休校期間があったが、休校中の課題に積極的に取り組んだり、登校再開から非常に安定して学習に取り組んだりする生徒が多く見られたこと、さらに、卒業生のほぼ全員が希望する学校や就職先に入ることができたことは、教職員のきめ細かな指導の成果である。今後は、通学コースと在宅学習コースの環境の違いについて、学校行事やホームルームの在り方などを関連させながら生徒を含めて検討していくことを期待する。
3 学校管理運営の状況	組織運営等の状況 教育目標と学校評価の状況 設置者と学校の取組状況	良い	学校評価の際に実施した自己評価によって、①自校の教育活動や学校運営について、明確な目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さを評価したり、②学校評価結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たす道筋が確立され、学校・家庭・地域の連携・協力が深まったことは評価できる。しかし、新入生の確保が課題となっている。次年度は、活動内容の充実やコースの拡充などの検討と情報発信の工夫による生徒数の増加を期待する。さらに、札幌学習センターの老朽化に伴う移転については、様々な面で課題が多い。当面は、フリースクールとの同居によるメリット面を最大限に生かし、教育活動の充実に努めていくとともに移転についての具体的な検討が必要である。
4 学校・家庭・地域の連携協力の状況	学校に関する情報公開の状況 学校と保護者・地域住民等との連携協力の状況	良い	これまで、「和寒町教育特区学校審議会」において、地元を根を伸ばした活動を展開していることに対して高く評価されている。本年度は、コロナウイルス感染症の感染拡大のため和寒町でのスクーリングが実施できなかったが、次年度は感染対策を万全にしながら実施する方向で検討することを期待する。また、ややもすると生徒と地域との関係が限定的な側面に陥りやすい点を改善し、学校の取組や生徒の現状について学校自らが和寒町全体に啓発するなどの工夫をし、さらに地域との幅広いつながりを期待したい。

5	学校設置による効果	学校が設置されたことによる経済効果	良い	今年度は実施することができなかったが、「北海道科」、「自然体験科」の学習を基盤とした和寒町におけるスクーリングは、対話と模倣、体験を通して実のある教育活動を展開している点が高く評価できる。豊かな体験活動は、生徒の夢や希望の実現の糧となり、将来の支えとなっていると同時に、経済効果としてもプラスに働いている。次年度以降も、コロナ感染症対策を取りながら、さらなる充実を図っていただきたい。また、今後、面接指導や添削指導の充実とともに、保護者の和寒町のイベントへの積極的な参加や、本校の和寒町における教育実践の積極的な発信を保護者の理解と協力を得ながら進めていくことを期待する。
6	町との連携協力の状況	町への現状報告及びセーフティネット対策の状況	良い	学校の運営状況や教育効果は、学校評価や学校審議会等を通して共有化されている。ただ、地域の活性化や地域産業を担う人材の育成のためにも、社会的な使命をより多角的に把握し、教育の質を落とすことなく、多様なニーズをもった生徒の受け入れを推進していく必要がある。そのためにも、日常的な情報交換や教育活動の紹介など、学校の教育活動への理解促進に努めることは重要である。そして、さらなる教育内容の充実と、生徒の安全安心を担保するセーフティネットの整備に、継続して取り組んでいくことを期待する。

総合評価	良い
------	----

総合所見	三和高等学校評価基準に基づき総合的に評価を行った結果、本年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休校など、例年がない対応が必要な場面が多くあった中、不登校や高校中退など様々な事情で、必要な学力、人間関係能力、自尊感情等を十分身につけることができずに入学してきた生徒に対し、教師が一丸となって心理面や生活リズムの安定を図る指導を行っている。さらに、教科指導や進路指導を通して、基礎的・基本的な学習内容を定着させ、個々の希望に応じた進路実現につなげている点は高く評価できる。また、本年度は新型コロナウイルス感染症のため実施することができなかったが、和寒町のフィールドや人材を活用した「北海道科」や「自然体験科」の学習は、和寒町民との交流を活発化させ、経済的効果にもつながっている。今後も、多様性のある生徒のニーズに適切に対応できるよう様々な場を通して教職員の指導力の向上を図っていくことが大切であるとする。また、本校のよさを積極的にアピールする情報公開の工夫と、保護者・住民の願いや思いを的確にとらえ実現させていく学校運営に努め、教育特区の高等学校としての使命を果たしていくことを期待する。
------	---

評価については、「模範的」、「優れている」、「良い」、「おおむね満足」、「要改善」の基準で評価しています。